

公明党

皆さまの「安心・安全」のために
いのちを 暮らしを この町を

守ります

Yoshihiko KOISO

東京都議会議員
こいそ善彦



新・消防署を町田市の 防災中核拠点に



東日本大震災の経験から、現在の消防署の機能だけでは大規模災害への対応が不十分であることが分かってきました。大規模災害に対応するために、新・消防署が備えるべき“防災中核拠点”としての条件を踏まえ、建て替えを進めていく必要があります。

防災中核拠点としての3つのポイント

1

アクセス

大規模災害が起これば、全国からの救援物資が殺到するため、広い道路に面していること。



大規模災害時に緊急輸送道路となる町田街道

2

スペースの確保

大量の物資を一時保管したり、平時から防災備蓄品を保管できるスペースの確保。



全国からの救援物資が届く(宮城県女川町)©公明

3

ヘリポートの設置

ドクターヘリ(写真下)や自衛隊ヘリの運用も視野に入れた、ヘリポートの設置。



ドクターヘリ



この3つの条件を満たすのが、木曽山崎地区の小学校の跡地(写真左)でした。新・消防署建設予定地は、地震直後に緊急輸送を行う道路として指定されている町田街道、鎌倉街道、さらには国道16号線に近く、大量物資を一時保管するスペースの確保、ヘリポートの設置などにも、十分な敷地があります。こいそ善彦の粘り強い訴えに対し、町田市がこの土地の提供を約束。新・消防署建設がついに現実のものとなったのです。

スタンドパイプの配布で飲料水の確保を!

災害時にもっとも心配されることのひとつが、飲料水の確保です。

ところが町田市が所有する給水車は1台、市民が利用できる給水所は13カ所。これまでもこいそ善彦は、川崎市との水の相互融通など、災害時の飲料水確保に取り組んできましたが、さらにスタンドパイプ(写真右)による避難時の給水方法を提案しました。スタンドパイプを使うと、消火栓から直接給水できるため、断水時や、学校やマンションなどの受水槽が停電で動かなくなったときに、大いに力を発揮します。今年の夏以降から順次、スタンドパイプ式給水キットが小中学校の避難所に配布されます。避難所を運営する住民の方や町内会の皆さんが自主的に活用していただけます。



ハイパーレスキュー隊の配備が実現!

東日本大震災の時に、救援活動で活躍したのが、東京消防庁のハイパーレスキュー隊(写真右)。そのハイパーレスキュー隊が八王子市鎌水地区に配備され、南多摩地域の防災体制がさらに強化されることになりました。

